

2017/04/27

## (日々雑感 91)



軍事兵法の真髄は非戦の論理なり。且つそれを基とした其の術なり。是を以て以降「軍事兵法」と名付け、称すもの也。(NHK 大河ドラマからの咀嚼引用)

何も「軍事」だとか「兵」だとか言う言葉が出てきたからと言って、鉄砲の打ち方、地雷の仕掛け方の話ではないのです。

闘わずして勝つ。武器を使わずして勝つ。血を流さずして勝つ。無血開城。

それが、軍事兵法が指し、求めるところなのです。世間で言っているのとは正反対の話なのです。

そうして、そのための方法としては、まず「敵を知り、己を知る」ことが第一なのです。相手、つまり敵の立場、視点になりきって、何を考えているかを知る。相手の立場に立つというのは、何も倫理道徳に限ったことではないのです。

その上で、自分の力の強弱を冷静かつ大胆に把握して、自分の強みを相手の弱みにあてがう。それだけです。

これは一種の人心掌握術、乃至は心理操作術でもあります。

それを最大限悪用したのがオカルトまがいの「新興宗教」だったり、ヒトラーの熱狂的な演説だったり、どこかの国による我が国民諸氏に対する、あるいは我が国のお上や一部の「伝達・吹聴屋さん」そのものがしている情報操作・謀略戦だったりするわけです。

弱り目に祟り目の相手が疲れ果てている、まさにその「弱みにつけ込む」訳です。

これを善用すれば、マーケティングや経営、精神科や心療内科の施療に役立ちます。

マーケティングで言うところの自社他社の強み弱み分析や、患者さんのところが一番弱り切ったところのある種の無防備状態を活かして、言い方向に向かう「種蒔き」をしたりするわけです。

一刻も早く一旦地獄へ落とし、底に至ってから、今度は上だけが見えるようにする。下を見ないで済むようにする。と言ったようなことです。

ぼくが軍事兵法の術を覚えたのは、以前にも申し上げましたが、何も専門の軍事兵法書を読んだりしたからではありません。小学校の頃、NHKの大河ドラマで自然と覚えたのです。巻頭の引用句は外の時の名残でした。

そのころは今の大河ドラマみたいに、女性が主役のドラマは殆どなく、大抵は戦国武将もののドラマだったので、それに興味を持ってためつすがめつ見ていただけなのです。

幸いにも小学生でしたから、まだまだ頭が柔らかくて、自然と中身がドンドン入ってきたのです。

あとは、リーマンショック以降、金への投資、震災以降の株式への投資も役に立ちました。変化への対応を学びました。

三つ目は、起業したことでしょうか。簡単に言うと、最後は一人で判断して、最終責任を取らなくてはならない。人のせいには出来ないのだと知りました。

そうして現時点の最終は、今年1/21から図らずもせざるを得なくなった「サバイバル生活」だったのです。

残念ながら今時点では、そこで何が得られているのかはまだ分かっていません。

それは、もう少し進んだ先での、僕が大好きな「謎解き」の、手元ストックにしておこうかと思っています。

これらは、小学校の頃のNHK大河ドラマ以外は全て、50歳を過ぎてからの手習いでした。しかも全て学校以外で習ったことです。

しかし、学校も役に立ちました。小中学校での9科目全部や高校での哲学授業、大学での文学と社会学と心理学。それとあと徹底的に洋の東西の古典を読んだこと。

学校も社会も、今のことも昔のことも役に立ったのでした。

そう言えば蛇足になるかもしれませんが、あの非暴力で有名だった故マハトマ・ガンジーさんも、この非戦の論理とその術である「軍事兵法」の真髓を捉え、それを基にしてその非暴力の戦略、戦術を立て、展開していたのではないのでしょうか。

「非戦の論理とその術」が一番民心を動かす。

最も民衆が参加しやすく且つ追われたときに逃げやすい。逃げるときには武器などの証拠が残らない。しかも主唱者側も参加者側も極めて低コストで開催、参加が出来、継続がしやすい。

真逆の真理と心理。これが軍事兵法の奥義（おうぎ）

今僕は、なんかそんな気がしているのです。故ガンジーさんは、単なる好好爺（こうこうや）のお人好しなんかではなく「偉大なる戦略戦術家」であったのではなからうかと思っております。でないとおそこまでの運動にはならなかったと思うからなのです。